

ばんけい

教育ほんといっしょ

かわら版

こ みち
教育の小径

No.160

2022 February

2月号



(一財)総合初等教育研究所参与

北 俊夫先生



今月のことば

とどのつまり

途中にいろんなことがあったが、結局のところ、行き着くところという意味です。ボラという魚は名称を変えながら成長し、最後にトドになるところからこういいます。

SDGsと学校教育

- SDGsは、国連がこれからの世界が解決すべき目標（課題）として定めたもので、17項目から構成されています。2030年の達成を目指しています。
- SDGsは日々の教育活動や授業、学校運営とも深く関わっています。SDGsを自校の課題として受けとめ、実践の可能性を検討することが求められます。

今月の記念日

2月18日

エアメールの日

1911年(明治44年)のこの日、インドで開かれた博覧会のアトラクションで、飛行機で郵便物が世界で初めて運ばれたことに由来しています。

SDGsとは何か

最近、テレビや新聞などで話題になっているSDGsとは何でしょうか。SDGsはSustainable(持続可能な)Development(開発)Goal(s)(目標)の略で、持続可能な開発目標のことです。これが国連で採択されたのは、2015年9月のことです。2016年から2030年の15年間で達成させる目標として国連の加盟国が決めました。

目標は「1 貧困をなくそう」「2 飢餓をゼロに」「3 すべての人に健康と福祉を」「4 質の高い教育をみんなに」「5 ジェンダー平等を実現しよう」「6 安全な水とトイレを世界中に」「7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに」「8 働きがいも経済成長も」「9 産業と技術革新の基盤をつくろう」「10 人や国の不平等をなくそう」「11 住み続けられるまちづくりを」「12 つくる責任 つかう責任」「13 気候変動に具体的な対策を」「14 海の豊かさを守ろう」「15 陸の豊かさも守ろう」「16 平和と公正をすべての人に」「17 パートナリシップで目標を達成しよう」の17の項目から構成されています。

国連が「目標」を設定した背景には気候変動による異常気象をはじめ、海や森など自然環境の破壊や汚染、経済成長による格差の拡大や貧困、紛争の多発など地球上に解決すべき多くの課題があり、早急に解決することが求められていることがあげられます。

SDGsの視点に立った授業

17の目標を学校教育の立場から捉えると、日々の教育活動と深く関わっていることがわかります。

教科等との結びつきを考えると、例えば「海の豊かさを守ろう」は、社会科の水産業や家庭科の食生活についての学習と関連しています。また「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」や「気候変動に具体的な対策を」は主として理科と、「ジェンダー平等を実現しよう」や「平和と公正をすべての人に」などは道徳科と関わりがあります。各教科等の学習内容や教材との関連性を検討し、実践の可能性を追究したいものです。

学校では、これまでも環境教育や国際理解教育、健康教育、食育、防災教育、平和教育、人権教育などさまざまな教育課題に取り組んできました。今後も、これらの教科横断的な教育課題をSDGsの視点に立って取り上げ、

特に総合的な学習の時間での実践を充実させたいものです。

SDGsの視点に立った教育活動や授業は、これまで持続可能な社会の創り手を育てることを目標に取り組んできた持続発展教育(ESD)と一体の関係にあります。

学校運営改善の視点として

企業や行政では、SDGsに先進的に取り組んでいる状況がみられます。それらは社会貢献活動としてだけでなく、企業や行政の体質や社会経済活動の質の問題として捉え、企業や行政のより望ましいあり方を追究しているものと受けとめることができます。

学校も社会的な存在ですから、学校の管理や運営をSDGsを実現させる観点から改善を図る必要があります。例えば「すべての人に健康と福祉を」「質の高い教育をみんなに」「安全な水とトイレを世界中に」などの目標は学校運営とも深く関連しています。

SDGsの目標を自校の課題として捉え、改善策を校内で話し合い、結果を学校運営の改善に生かすことが求められます。例えば、校内の校務分掌に推進のための担当者を位置づけたり、子どものSDGs委員会を設置したりすることが考えられます。

子どもの言葉

途上国の人にはスベリ台方式で

わが国が行っている国際協力について、発展途上国の人々の生活をはじめ、教育や医療、産業などの側面から、具体的な取り組みを調べたときのことです。授業者は「日本は発展途上国に対してどのように援助したらよいのだろうか」と問いかけました。

これに対してO男君は、途上国の人たちへの援助には「スベリ台方式」が必要だと主張したのです。ところが、ほかの子どもたちは何のことかわかりませんでした。そこで、教師は「スベリ台方式」とはどういうことか、O男君に説明を求めました。

O男君は、「スベリ台の上から『手伝ってあげる』と言っても、発展途上国からは断られます。上から下において、同じ立場に立って『手伝おう』と言うと、『ありがとう』と受け入れられると思います」と説明しました。

これを聞いたS子さんは、「O男君の考えは相手国のことを考えて援助するということだと思います。私の調べたところ、ある国がネパールの病院に立派な機械を送りました。けれど、使うための技術や電気がないのでほこりがかぶっているという事実がありました。だから、相手国のことを考えて援助することが大切だと思います。」とO男君の発言を補いました。

O男君の主張した「スベリ台方式」という表現は、スベリ台の高いところから「上から目線」で途上国に関わるのではなく、そこから下にスベリ下りて、同じ立場で、相手の状況を理解して援助することが大切だということをたえたものです。「スベリ台方式」とはO男君の生み出した個性的な発想であり、コトバだと言えます。

教育の動向

「国語に関する世論調査」

文化庁は令和2年度「国語に関する世論調査」の結果を公表しています。16歳以上の個人を対象にしたものです。特徴的な結果を紹介します。

新型コロナウイルス感染症に関連して、マスクを着けると話し方や態度などが変わることがあると答えたのは62.4%でした。その内容は、声の大きさに気をつける(74.1%)、はっきりとした発音で話す(57.5%)、相手との距離に気をつける(45.1%)と続いています。

言葉遣いに対する印象や慣用句の認識と使用についても調査しています。

「朝5時に来られますか」というところを「朝5時に来れますか」と使っている人は52.2%、「今年は初日の出が見られた」を「初日の出が見れた」と使っている人は、52.5%でした。「らぬぎ」の表現が進行していることがわかりました。「とてもおいしい」ことを「めっちゃおいしい」と使っている人は57.9%でした。

「急に、突然」という意味の「がぜん」を「とても、断然」と捉えている人は67.0%。「だれも成し得なかったことをすること」を意味する「破天荒」を「豪快で大胆な様子」と答えた人は65.4%でした。

言葉は文化ですから、言葉も時代とともに変化しますが、本来の意味や使い方はきちんと指導したいものです。

北 俊夫の「実践と研究」の足あと 28

現場との評価研究

文部省で教科調査官として初めて関わったのは佐賀県鳥栖市立鳥栖小学校でした。鳥栖小学校は平成3年度から2年間、文部省の指定した教育課程研究指定校(社会科)として実践研究に取り組んでいました。

研究テーマは「個を生かし、伸ばす指導と評価の一体化」でした。多くの学校では、評価することを成績をつけることだと捉えられていた時代です。指導と一体化した評価のあり方を究めようとする実践研究は極めて画期的なものでした。当時の手帳には、平成4年6月11～12日の欄に学校を訪問したことが記録されています。

訪問に先立って、学校から55項目の質問事項が届けられました。それらのなかには、評価基準と評価規準はど

のように違うのか。社会科の評価規準を設定するに当たってどんなことに留意すればよいのかといった、いまにも通じる質問が数多くありました。

評価研究の成果は『新学力観に立つ社会科・生活科の授業づくりと評価』(明治図書)として刊行されました。そのなかで当時の末次晃校長は「授業のなかでの指導と評価は文字どおり一体になるべきものであり、子ども一人ひとりの『よさを探す』(児童理解=評価)意識をもって、その『よさを伸ばそう』(指導)とする教師の営みこそ『指導と評価の一体化』だ」と述べています。極めて重要な指摘でした。

評価の目的をA・B・Cでランクづけ、通知表や指導要録を記載することだと受けとめられがちななかで、児童理解と授業改善に軸足を置いた評価観から多くのことを学びました。

INFORMATION

ぶんけいの選べるテスト!

基礎・基本のAテスト



基礎・基本と活用のNテスト



2022年度 GIGA対応してパワーアップ!

きたえこひきシート



デジタル解説つき

編集後記

家庭学習において、子どもが「どこで学習するか」はとても重要です。リビングで学習をすれば、保護者と一緒に学習ができますし、自室で学習をすれば一人で集中して学習ができます。「学ぶ場所」を選んで学習するのもいいかもしれません。(F記)

企画・編集：ぶんけい教育研究所
発行：株式会社文楽堂
発行日：2022年2月1日